

表紙の言葉

『黒漆歌螺鈿硯箱』

箱の上になにやら描かれているのは、実は貝を切って表現した螺鈿技法の文字です。

この作品は硯箱で、文字の内容は琉球の三司官（大臣のような役職）で琉球を代表する歌人でもある、宜湾（ぎわん）朝保（ちょうほ）（1823—1876）の詠んだ和歌です。

1868年の明治維新以降、明治政府は琉球を日本の領土として取り込もうとします。1872年に琉球は明治維新を祝う維新慶賀使一行を派遣します。宜湾朝保はこのとき派遣された維新慶賀使の副使でした。硯箱の和歌は、その時吹上御苑で行われた歌会で詠まれたもので、おめでたい気分があらわれています。

紅葉如酔

汲かはすまとみの

外のもみちまて

酔のさかりと

見ゆるけふ哉

（酒を酌み交わす座の外には、紅葉が色づいているのが眺められる。その赤さは、まるで紅葉が酔っているかのようにも見える。）

しかし明治政府は琉球王国に琉球藩となるよう迫り、維新慶賀使はそれを受け入れざるをえませんでした。藩となったことで、琉球国内では日本の属領となるか今まで通り日本と清国両属のままでいくのかで大きな混乱や対立が起こりました。そのため維新慶賀使の面々はきびしい批判を受け、宜湾朝保は失意のうちに亡くなりました。

その後1879年、日本政府は官僚や警察官、軍隊などを派遣し琉球藩の廃止と沖縄県を設置を宣言、琉球王国はついにその歴史に幕を下ろしました。これがいわゆる「琉球処分」です。

この作品がどういう理由で宜湾朝保の和歌を文様としたのかはわかりません。しかし、硯箱からは琉球の転換点となった歴史のドラマを見ることができます。この作品は、「琉球処分」から130年目の今年、前年常設展「琉球漆器と世替り」で9月30日まで展示されます。

（岡本）

美術館スケジュール 2009年8月～11月

■常設展

琉球王朝文化の華－漆芸－

■平成21年度前期

「琉球漆器と世替り－薩摩侵攻400年・琉球処分130年－」
・4月3日（金）～9月30日（水）

■企画展

■美術館自主企画

・9/16（水）～9/30（水） うらそえ美術の軌跡

■その他

- ・7/18（土）～8/30（日） 中島潔の世界展
- ・9/5（土）※1日のみ 第33回 こども絵画コンクール
- ・9/9（水）～9/13（日） 「いじゅの会」第14回木彫り作品展
- ・10/9（金）～11/15（日） 片岡鶴太郎展 '09
- ・11/18（水）～11/22（日） 梧桐会 書道展
- ・11/26（木）～11/29（日） 第27回 浦添市文化協会文化祭

開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
*金曜日は午後7時まで（入館は午後6時30分まで）

休館日

毎週月曜日

*展示替えにともなう臨時休館10月1日（木）～8日（木）

開館日のお知らせ

当美術館の休館日は毎週月曜日となっておりますが、**月曜日が公休日**の場合は**開館**しております。またその際、代休日は取らずに次週の定期休館日まで連日開館いたします。どうぞお気軽にご来館ください。



音声ガイド リニューアル

今年度よりデジタルオーディオが音声ガイドとして採用され、とてもコンパクトになりました！
英語の音声ガイドも登載！
常設展をご覧の際にはぜひ、ご利用・お試ください。
（貸出し無料）



11月13日は“うるしの日”

1985年（昭和60年）、日本漆工芸協会が11月13日を「漆の日」に制定しました。これは、平安時代のこの日、文徳天皇の皇子・惟喬親王（これたかしんのう～伊勢物語にも登場する親王です～）が、京都の法輪寺で虚空蔵菩薩（こくうざうぼさつ）に祈願して漆製法の秘伝を授けられたという伝承にちなんだものです。

当美術館では毎年「漆の日」にあわせて、「美術館フェスタ」を開催しています。今年も漆器づくり体験教室など、数々の楽しいイベントを予定しております。詳細はホームページや広報誌などでお知らせいたしますので、どうぞお楽しみに！

臨時休館について

常設展示替え・館内消毒のため、10/1（木）～10/8（木）までの期間を休館します。